

八田仁左衛門さん 令和3年秋の黄綬褒章 受章おめでとうございます

令和3年秋、近江八幡市で肉用牛を飼養されている八田仁左衛門さんが黄綬褒章を受章されました。

八田さんは昭和46年より大中地域でホルスタインの肥育経営に取り組み、平成3年より交雑種と黒毛和種に切り替えられました。和牛の飼育は初めてでなかなか良い牛ができず、部会のみなさんと共に岐阜県や静岡県などにある先進的な牛農家を訪れて勉強し、飼養方法や飼料内容の検討を続けてこられました。当時、全国的にはビタミンAコントロールにより肉質改善の取組が始まっていましたが、当時は十分な技術が確立されておらず、取り組むには大変勇気がいったそうです。しかし、失敗するリスクがあったものの、「先人が作り出した近江牛に少しでも近づきたい」という思いが強い仲間たちで『牧友会』を立ち上げ、挑戦することとなりました。平成11年には新しい飼料の設計を専門家に依頼し、混合飼料工場で製造・供給が開始され、牧友会での取組が本格的に始まりました。関係機関の指導もいただきながら、毎月会員の牛舎をパトロールし、2ヶ月に一度検討会を続け、飼養環境の改善にも努められてきたそうです。

そして、取組の効果が平成13年頃よりみられはじめ、一緒に頑張ってきた仲間の方々が共進会で最優秀賞を受賞されました。八田さんは平成15年および18年に近畿東海北陸連合肉牛共進会において最優秀賞（農林水産大臣賞）を受賞されています。

これまで様々な賞を受賞されている八田さんですが、功績はそれまで一緒に頑張っ

てくれた仲間や家族、指導に当たってくれた関係団体の方々のおかげだと何度もおっしゃっていました。牛づくりで大事にしていることは、「牛の気持ちになって考えること」「愛情をもって牛に接すること」だそうです。そういう八田さんの牛舎はとても綺麗で、牛にとってストレスの少ない環境だと感じました。

先人の方々が作り上げてきた近江牛ブランドの名に恥じない牛づくりを頑張ってきた八田さんですが、現在は牛と共に生きることを楽しみながら自分のペースで牛飼いを長く続けることが目標だそうです。

大中では、これからの近江牛を支える若い後継者の方々が勉強会『ウシラボ』を立ち上げて頑張っておられます。今は全国的にいい牛がどんどん出てくる時代ですが、ウシラボの皆さんには「更においしい近江牛」を目指して頑張りたいと大きな期待を寄せておられました。

近江牛を作り上げた先人を尊敬し、若い生産者を心から応援する八田さんの「技術を受け継ぎ、守り、次へ繋ぐ」精神に深く感動しました。今後も大事な仲間・ご家族の皆さまと共に、愛情をたっぷり注ぐ八田さん流の牛飼いを長く続けてくださることを期待しています。（西村）

